

「まちづくりは生きもの」 ニーズに合わせて変化することが大切

白鷗大学 教育学部
結城史隆 教授



昔の日本は、地域の助け合いがないと生活が成り立ちませんでした。しかし、現在の活動の中心は会社などの地域以外の場に移っていきます。そのため、今まで地域で支え合ってきた子育てや介護などが、お金で解決できるようになり、その結果、地域のつながりは徐々に必要性を失ってしまいました。

さらに現在はデジタル技術が発達し、スマホなどで多くのことが解決できるようになりました。自分に必要な人間関係はSNSなどで作れば用が足りてしまいます。そのため、自身の関心がある所だけでつながればいいという考え方を持つ人が増えてきています。

しかし、本当にそれでいいのでしょうか。地域の人の顔が見え、困ったときに支え合える関係は失ってはいけないものであり、何ものにも代え難い大切なものです。

「まちづくりは生きもの」であり、常に変化しているためマニュアルは存在しません。だからこそ、今の人が求めるニーズに合わせて私たちの考え方を考える必要があります。

義務的要素が強いと言われる自治会・行政区、地域コミュニティ、消防団には、昔からの決め事などが多くあります。それらを守ることは大切なことかもしれません。

しかし、これからも地域のつながりを継続させていくためには、周りが求めるニーズをしっかり捉え、変化していく必要があります。

自治会・行政区や地域コミュニティなどが育む地域のつながりは、間違いなくこれからも必要なものであり、大切なものです。それらを新しい形に変えられるよう、今、自分たちにできることを皆さんでしっかりと話し合ってみましょう。

～Profile～

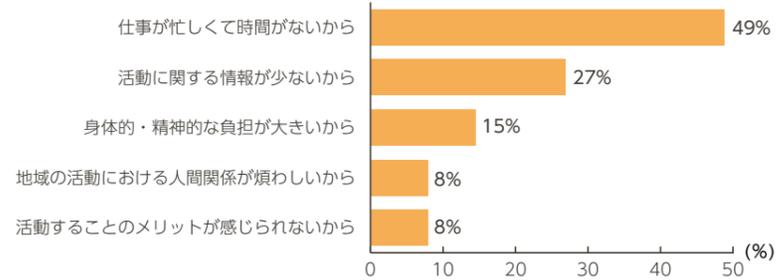
東京大学大学院博士課程。社会学修士。
白鷗大学で教壇に立つ傍ら、小山市市民活動センター「おやま〜」のセンター長として、市民の自主的な活動を支えている

「一人ぼっち」を作らない 持続可能な地域のゆるいつながりを

図3：地域活動参加状況についてのアンケート

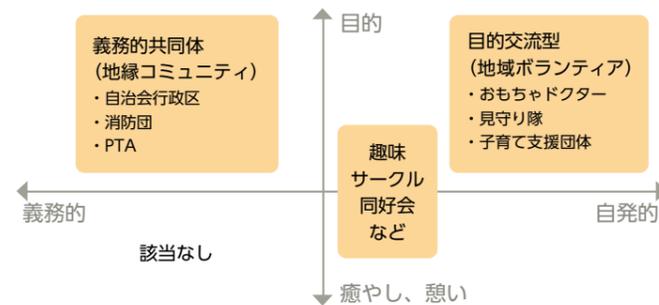
あなたが、地域の活動に参加していない理由は何ですか？

出典：少子化対策と家族・地域の絆に関する意識調査(内閣府)
[H19.2実施・計1,032人、複数回答あり]



● コミュニティの分類

(石山恒貴編著「地域とゆるくつながるラースードプレイスと関係人口の時代」をもとに作成)



人とのつながりが希薄になっていくと、地域において孤独状態になりかねません。人間は社会的動物なので、このような状態が続くと、肉体的・精神的に大きな悪影響が出るかとされています。私たちの地域にはこのような「一人ぼっち」の人が、高齢者や子育て中の母親、居場所のない子どもたち、移住してきた人、外国人などたくさんいます。このような人たちが地域に溶けこむためには、魅力に感じられる場所や活動が、普段から充実していることが大切です。

地域における私の居場所
この持続可能な地域づくりを着実に進めていくためには、地域との関わりに「自分は関係ない」と一線を引いている傍観者が意識を変えていくことも大切です。地域の中でみんなと一緒に楽しめる活動や関わることのできる場所が、そんな人たちに惹き付けます。私たちの地域活動を今後とも持続可能に発展させていくためにも、令和の時代にふさわしい新たな形へと舵を切る時なのです。

私たちのまちでは、たくさんの方々の地域活動が行われています。これからの活動を将来にわたって持続可能なものにしていくために必要なことについて考えてみましょう。